

新年を迎えるにあたって

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、昨年夏に発生した台風・豪雨により被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。新しい年を迎えるにあたり、最近の酪農をめぐる情勢を踏まえ、所信の一端を述べさせていただきます。

昨年は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会のシステムや人々の生活に大きな影響をもたらした一年となりました。わが国においても、東京オリンピック・パラリンピックの開催が延期されるなど、さまざまな行事や社会活動の自粛を余儀なくされました。新型コロナウイルス感染症に罹患された方および関係者の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

このような状況のなか、都府県の生乳生産は漸減基調で推移していましたが、昨年秋から前年を上回って推移しております。全国各地で継続的に取り組まれてきた生産基盤対策の効果によるものと考えており、本会議におきましても、引き続き性判別精液・受精卵の活用や乳用後継牛確保等の生産基盤対策の推進に傾注したいと存じます。

昨年の酪農乳業界は、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に一変いたしました。春先の政府による「緊急事態宣言」の発出等を背景とした学乳停止、外出自粛、飲食店などの時短営業や休業、テレワークの進展、外国人の入国制限等に伴う牛乳乳製品の大幅な需給緩和が、6月に逼迫傾向に転じ、夏場には牛乳の出荷制限なども行われるなど、目まぐるしく移り変わる需給に、不安を覚えた方々もたくさんいらっしゃるのではないかと存じます。これまでのところ、指定団体をはじめとする酪農乳業関係者の多大な努力により、コロナ前後でも変わらず継続的に集送乳が行われ、幸いにも行き場のない生乳等は生じておりません。

一般社団法人中央酪農会議 会長 中 家 徹



しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の終息の目途はたっておらず、今後の生乳需給は当初見込みより大幅に緩和することが懸念されております。このため、令和2年12月に開催した本会議の理事会におきまして、都府県の生乳生産基盤を毀損させないよう、年度末に向けた需給緩和状況のなかでの生乳の完全処理の実現に向け、需給調整リスクの一部地域への偏在化への対応として、脱脂粉乳・バター等向け生乳数量のうち指定団体ごとに設ける基準を上回った部分に対して補てん金を交付する緊急対策に取り組むことを決定いたしました。

令和3年度におきましても、国内生乳生産基盤が回復しつつある状況を踏まえ、酪農家の皆さまが安心して生乳生産できる環境を実現するため、引き続き生乳需給安定化・生産基盤強化対策に取り組むとともに、他団体等とも連携した新規就農に係る関係者のプラットフォームづくりの構築、酪農の果たす役割・価値の再点検・発掘・啓発・普及活動、指定団体が行う生乳受託販売事業等への理解者・応援団の拡大並びに自然災害への対応継続等の酪農理解醸成活動に、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、一層邁進してまいります。また、本会議役職員一同、今後も酪農家の皆さまが「誇り」、「やりがい」、「夢」を持てる酪農産業を確立して行けるよう努めてまいります。

酪農および牛乳乳製品をめぐる国内外の情勢が変化する中、関連する情報を収集し、生産者・関係者を含め広く情報提供することの重要性も一段と高まっております。このような状況を踏まえ、本誌においても海外を含めた酪農乳業に関する情報を収集・分析した上で発信してまいりますので、引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。

本年も皆さま方のご支援、ご理解の程、よろしくようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆さまにとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。